

探究・校務改革
支援補助金
2025

令和6年度補正予算
地域未来人材育成支援民間サービス等利活用促進事業費補助金



探究的な学びの高度化/教職員の校務負担軽減を目指して

効果報告レポート

【事業者名】

株式会社城南進学研究社・株式会社オーナー

【サービス名称】

推薦ラボ(株式会社城南進学研究社)
探究百科GATEWAYワークブック(株式会社オーナー)

【サービスの支援項目】

カテゴリ1-1 探究的な学びの高度化 メインサービス

2026年1月



総合型 / 探究学習サポート



探究講座

【推薦ラボ】(株式会社城南進学研究社)

1. サービスの概要、特徴

『推薦ラボ』は、探究の成果を総合型・学校推薦型選抜の対策に結びつけ、生徒のキャリア形成をサポートする教材です。映像授業とそれに連動したワークシートにより、出願書類の作成や面接試験の対策をスムーズに行えます。

(1) 導入によるメリット、類似サービスとの違い等

社会課題の探究を通じて、大学進学後の探究テーマと将来ビジョンを具体化し、キャリアプランを明確にできる。
端的で分かりやすい映像講座、それと連動したワークシートにより、探究をスモールステップで進めることができる。

(2) 学習に関連する効果又は業務効率化・利便性等に関連する効果

学習項目と学習順序を約40枚のワークシートに視覚的に配置することで、探究すべきことと学習進度を明確化した。
ワークシートに集めた情報を生徒と教員が共有することを通じて、書類添削や面接指導の精度と効率の向上を図った。

(3) サービスの活用場面

まず「総合的な探究の時間」等でクラス全員で一斉に、または生徒が個別に映像講義を視聴してポイントを理解する。
次にその理解に基づきワークシートに取り組み、出願書類の執筆や模擬面接に取り組むという流れで活用した。

(4) 1サービスあたりの標準販売価格

1アカウントあたり年額5000円(税抜) / 5500円(税込) (志望理由書のプロ講師添削1回付きの場合) ※利用料に通信費は含まれません。

2. サポート内容(サービスの利用に際しての自社のサポート体制等)

高校のニーズに応じて、生徒向けのガイダンスや教員への説明を行った。その他、高校からの問い合わせには随時対応した。
また、株式会社オーナーと合同で、高校教員向けのセミナーを8月と12月に実施した。

【探究百科GATEWAYワークブック】(株式会社オーナー)

1. サービスの概要、特徴

探究百科GATEWAYワークブックは、全9講立てのテキストと動画で探究学習の流れが体系的に学べる教材です。

(1) 導入によるメリット、類似サービスとの違い等

探究の課題設定、調査研究、整理分析、まとめ・表現という流れを踏まえ、探究のステップに沿って講座を設けた。
また、特に重要なステップであるテーマ設定に至る流れを重視している。

(2) 学習に関連する効果又は業務効率化・利便性等に関連する効果

ワークを生徒主導で進められるように書き込み式のワーク、ワンポイント解説動画による構成とした。
これにより、教員の負荷を下げながら探究学習を進めることを可能とした。

(3) サービスの活用場面

「総合的な探究の時間」の中で、各講義を一斉に見て探究の方法を全体で理解する、もしくは生徒が個別に講義を確認しながら、各自必要な点を理解するという流れとした。

(4) 1サービスあたりの標準販売価格

1アカウントあたり年額1560円(税抜)・1716円(税込) ※利用料に通信費は含まれません。

2. サポート内容(サービスの利用に際しての自社のサポート体制等)

サービスの利用に際し、随時問い合わせに対応するとともに、ニーズがある学校に対しては個別の研修や授業サポートを行った。
また、株式会社城南進学研究社と合同で、高校教員向けのセミナーを8月と12月に実施した。

「総合的な探究」の指導において、教員にはテーマ設定支援や個別指導の負担、特定教員への業務偏りが生じている。これに対し「探究百科GATEWAYワークブック」は、生徒が自律的に学べる構成と指導案で負担を軽減し、テーマ設定も支援する。「推薦ラボ」は進路探究に必要な知識を効率的に学べる仕組みと添削サービスにより、個別指導や特定教員への負担集中を防ぐ。

児童生徒・教職員が抱える課題

2022年に必修化された「総合的な探究の時間」は、生徒が自ら課題を設定し探究する力を育てる学習として重要視されています。一方で、探究を指導する教員の負担は課題となっており、約6～7割が必要を感じているものの、「教師の負担の大きさ」や「テーマ設定の難しさ」が大きな課題として挙げられています。

また、探究的な学びを生徒自身の進路探究に接続し、学部学科選択や総合型選抜等に活用するに際しては、「個別指導の過負担」や「特定教師への業務負担の偏り」が課題となっています。

参考：カンコー学生服調査

https://prt-times.jp/main/html/rd/p/000000080_000085588.html

サービスが果たす役割

「探究百科GATEWAYワークブック」は、探究の流れに沿った9講座構成となっており、1コマ50分で実施可能な設計です。全講座に教員指導案を付属し、また、生徒が自律的に進められる構成とすることで、教員の負担を軽減します。

また、「テーマ設定」の難しさを軽減するため、テーマ設定に移る前の分野研究やテーマ設定に向けた情報収集を重視しており、生徒が効果的なテーマ設定を行えるように工夫しています。

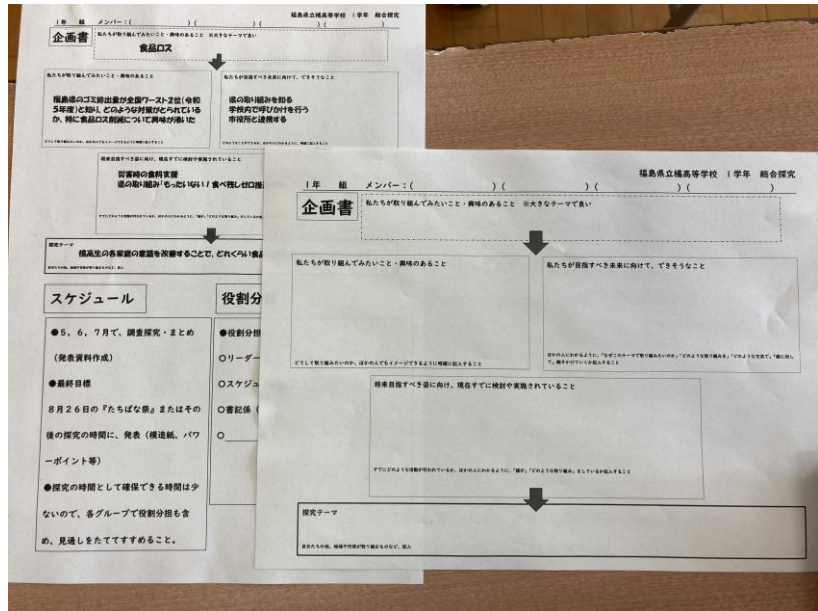
これらによって、単なる調べ学習にとどまらず、適切な課題を生徒が設定しながら仮説を設定、仮説設定、検証していく探究的な学びのプロセスを高度化することが可能です。

「推薦ラボ」は、進路探究及び総合型選抜等で必須の知識を、9講の映像講座（1講は約30分）と40枚のワークシートで学習する構成です。社会問題の探究を大学の学びや将来ビジョンに結びつけ、探究をより深化させることが可能です。

また、全生徒に必要な「共通ポイント」を効率的に学べるため、「個別指導」にかかる教員負担が軽減できます。教員用の運用マニュアルも完備され、さらにプロ講師による添削サービスが付随しているため、特定の教員が指導や志望理由書等の添削を丸抱えせず、教員全員で指導を行うことが可能です。

■探究・校務改革支援補助金における活用場面

サービスの活用風景・授業の流れ



『探究百科GATEWAYワークブック』は、探究の流れに沿った9講座構成となっている。「課題の設定」、「調査・研究」、「整理・分析」、「まとめ・表現」という基本ステップに基づいているため、各学校の進めている探究学習の流れに組み合わせやすい。

左は福島県立橋高校が学校で作成したワークシート。この後、「探究百科GATEWAYワークブック」の「分野研究」の部分を活用し、それぞれが設定するテーマを検討した。

教員からも「また、ワークシートなどの様式は、それを参考に学校の実情に合わせて作成することができた点がたいへん助かった」という声をいただいた。

『推薦ラボ』は、9講の映像講座とそれに連動した40枚のワークシートで構成されている。映像講座の前半4講で「情報収集」、それを受けて後半3講で「書類作成」、2講で「面接対策」という流れで学習を進めていく。

右は山形県立酒田東高等学校で12月に高2生全員に対して弊社社員が行った、志望理由書ガイダンスの様子。ここで『推薦ラボ』の活用法をお伝えした。この後、年末年始期間で生徒が個々に映像講座を視聴しつつワークシートに取り組み、年明けに志望理由書を作成、それをプロ講師が添削するという流れで指導を行った。

教員からは、「構成や内容がわかりやすく充実していて、高校教員としてこれまで指導してきた手法に沿っていた」との評価をいただいた。



本事業においてサービスを導入した学校設置者数・学校等教育機関数

学校設置者数	9	学校等教育機関数	9校
--------	---	----------	----

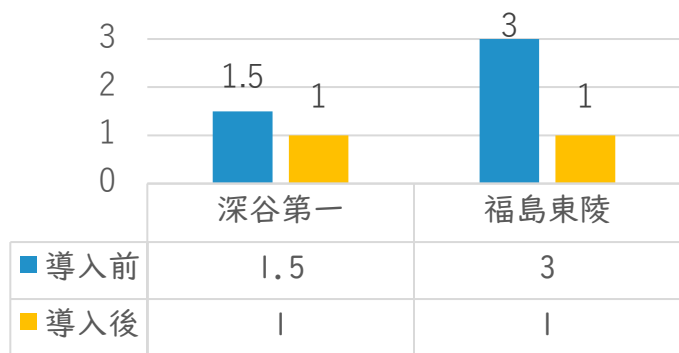
	学校設置者名	学校等教育機関名	所在地	学校種	学年	実施内容
1	学校法人東稜学園	福島東稜高等学校	福島県	高校	2,3	探究的な学びの高度化(総合的な探究の時間)
2	埼玉県教育委員会	埼玉県立深谷第一高等学校	埼玉県	高校	1~3	探究的な学びの高度化(総合的な探究の時間)
3	宮城県教育委員会	宮城県仙台西高等学校	宮城県	高校	1~3	探究的な学びの高度化(総合的な探究の時間)
4	福島県教育委員会	福島県立橘高等学校	福島県	高校	1	探究的な学びの高度化(総合的な探究の時間)
5	福岡県教育委員会	福岡県立八女高等学校	福岡県	高校	1~3	探究的な学びの高度化(総合的な探究の時間)
6	群馬県教育委員会	群馬県立館林高等学校	群馬県	高校	1~3	探究的な学びの高度化(総合的な探究の時間)
7	山形県教育委員会	山形県立酒田東高等学校	山形県	高校	1~3	探究的な学びの高度化(総合的な探究の時間)
8	学校法人常盤木学園	常盤木学園高等学校	宮城県	高校	2,3	探究的な学びの高度化(総合的な探究の時間)
9	株式会社成美学園	成美学園高等學校	千葉県	高校	1~3	探究的な学びの高度化(総合的な探究の時間)

【児童・生徒の探究学習】【教職員の業務効率化・省力化】等サービス活用による成果

定量的効果検証

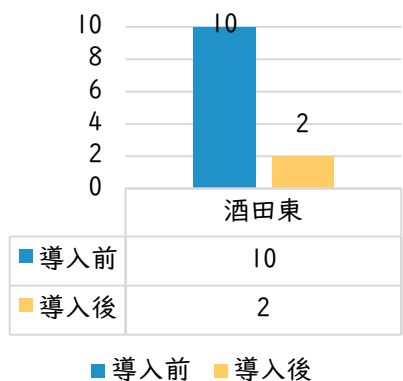
◇指導時間の変化

(生徒1人に要する、先生1人の月間指導時間)



◇添削時間の変化

(生徒1人に要する、先生1人の添削時間)



■指導時間

『推薦ラボ』で行った業務に、先生1人当たり月間で要したおおよその時間を、『推薦ラボ』導入前と導入後のそれぞれについて取材したところ、以下の回答をいただいた。

- ・ 導入前：1時間30分⇒導入後：1時間（埼玉県立深谷第一高校）
- ・ 導入前：3時間程度⇒導入後：1時間程度（福島東陵高等学校）

また、先生1人当たりの志望理由書の添削時間については、以下のような回答があった。

- ・ 導入前：10時間⇒導入後：2時間（山形県立酒田東高校）

■添削回数

『推薦ラボ』について、志望理由書等の添削業務負担について取材したところ、以下の回答をいただいた。

- ・ 担当教員個人の補習講座としての活用だったため個人の負担は増えたが、他の教員の添削回数が平均5人分くらい減った。（埼玉県立深谷第一高校）

・ 3年生については、生徒が個々に下地を作れたので、教員の添削回数が3割減ほどになった。2年生については、クラス担任が30～40人の志望理由書を添削する業務がなくなった。（山形県立酒田東高校）

- ・ 志望理由書作成等の手間が大いに減った。4～5回実施していたものが、1～3回程度になったと実感。（福島東陵高等学校）

■探究的な学びの成果

『推薦ラボ』では、社会問題の探究を大学の学びや将来ビジョンに結びつけて探究を深化させるが、グループワークも含めてそれに取り組んだ高校から、以下の回答をいただいた。

- ・ 総合型選抜で前年より多くの生徒が、本校のボリュームゾーンの大学より上位の大学に20名ほど合格できた。例年よりも成績層が低い生徒も合格できた。（埼玉県立深谷第一高校）

※本ページの内容は、2025年12月に株式会社城南進学研究社と株式会社オーナーが、各高校の担当の先生を対象に実施した「探究・校務改革支援補助金2025 ご利用アンケート」の回答（9件）をもとにしています。

■【児童・生徒の探究学習】【教職員の業務効率化・省力化】等サービス活用による成果

定性的効果検証

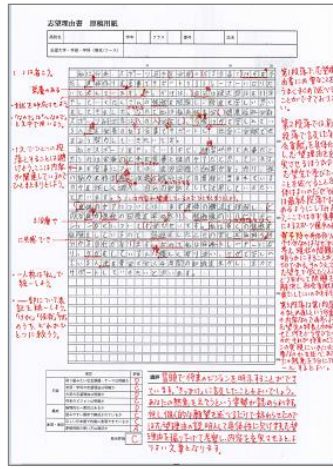
■探究百科GATEWAYワークブック

・活用した学校から、「GATEWAYは探究分野研究、課題の設定、情報の収集の内容が充実しており、生徒も活用しやすかった」、「探究学習の流れなどが1冊にまとまっており、このような資料があると教員側の負担が減る。また、適宜必要な箇所を抜粋して提示することもできるため、使いやすい」という声をいただいた。
 ・このことから、授業準備にかかる負担を軽減して多くの教員が感じている探究学習の負担を省力化しつつ、探究の指導に専念することでより生徒の学びを充実させることにつながると考察できる。

■推薦ラボ

・コンテンツについては、多くの高校から「分かりやすい」「取り組みやすい」との声があった。特に映像講座で、志望理由書の作成手順が説明されている点が評価されている。また、テキストに志望理由書例があり、具体的にどう書けばよいか参考になったようである。さらにワークシートが活用しやすく、それをやらせるだけでも成果物を作ることができるとの声もあった。
 ・生徒指導の場面では、映像授業なので全体指導も個別指導もやりやすかったとの声があった。志望理由書の作成手順を生徒全員で共有できたという点で、導入のメリットを感じていただけた。
 ・先生方の負担も軽減できた。まず、生徒指導を省力化できたという声があった。次に、先生方の指導スキル向上に役立ったという声もあった。例えば、若くて指導経験の浅い先生方に指導ノウハウが伝わった、先の方の意識変革のきっかけになった、などである。
 ・総じてコンテンツが使いやすく、利用生徒全員の学習効果を上げることができた。また、先生方の指導力向上や業務効率化の点でも、大いにプラスの影響があったと言える。

※本ページの内容は、2025年12月に株式会社城南進学研究社と株式会社オーナーが、各高校の担当の先生を対象に実施した「探究・校務改革支援補助金2025 ご利用アンケート」の回答(9件)をもとにしています。



【児童・生徒の探究学習】【教職員の業務効率化・省力化】等サービス活用による成果

定性的効果検証

【探究・校務改革支援サービスを活用した教職員等のコメント感想等】

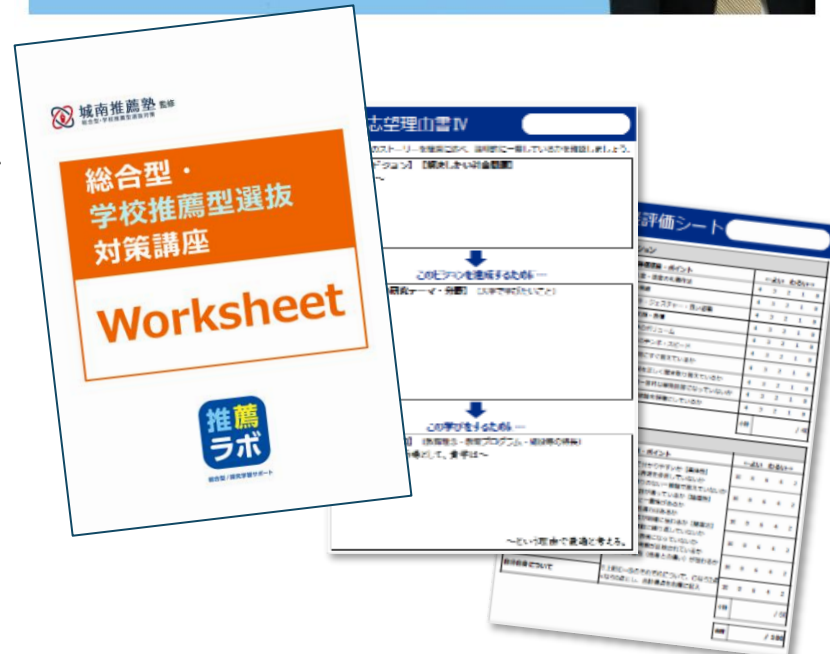
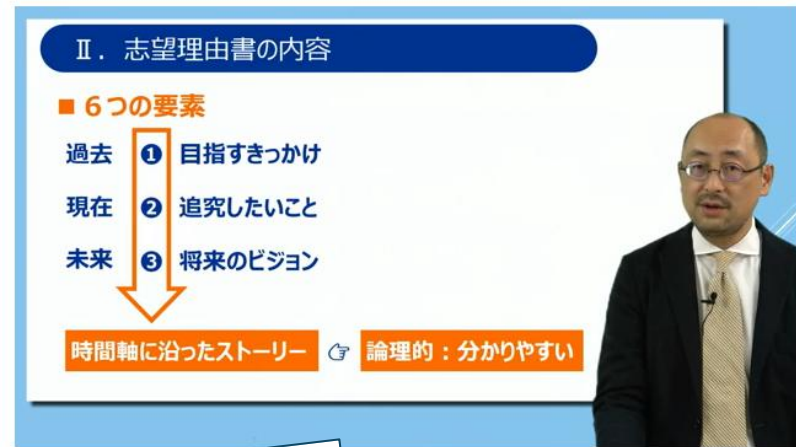
■探究百科GATEWAY

- ・GATEWAYは探究分野研究、課題の設定、情報の収集の内容が充実しており、生徒も活用しやすかった。また、ワークシートなどの様式は、それを参考に学校の実情に合わせて作成することができた点がいへん助かった。
- ・探究学習の流れなどが1冊にまとまっており、このような資料があると教員側の負担が減る。また、適宜必要な箇所を抜粋して提示することもできるため、使いやすい。

■推薦ラボ

- ・「推薦ラボ」の志望理由書を書くためのコンテンツはとても良かった。教育系のICTコンテンツは現在様々あるが、手広くやっている業者さんのものと比較しても構成や内容がわかりやすく充実していた。
- ・テキストは具体的なものが載っていたり、志望理由書例が載っていたりして、具体的にどう書けばいいか大変参考になるものであった。
- ・映像授業なので、全体への指導も個別の指導もやりやすかった。また、ワークシートが非常に活用しやすく、ワークシートをやらせていくだけでも、ある程度の成果物を作ることができた。
- ・すごく良い内容であると思う。動画もよくできており、早めに教員に導入の意図や内容、生徒への活用法を承知できればよかった。
- ・生徒の指導が省力化したことが一番うれしいが、副次的な効果として指導のキャリアの浅い若手の教員が、どのような手法・考え方で生徒に指導すればいいのかのノウハウが伝わったこと。
- ・管理職からは、職員の意識を変えるきっかけになったため大変良かったという話があった。

※本ページの内容は、2025年12月に株式会社城南進学研究社と株式会社オーナーが、各高校の担当の先生を対象に実施した「探究・校務改革支援補助金2025 ご利用アンケート」の回答(9件)から抜粋したものです。



■【児童・生徒の探究学習】【教職員の業務効率化・省力化】等サービス活用による成果

コンソーシアムを組むことによる相乗効果

■コンソーシアムの以後と効果

- ・コンソーシアムを組むことにより「総合的な探究の時間」から「総合型選抜・学校推薦型選抜」まで一体的な対策が可能となった。
- ・「高校2年生から早めに総合型選抜・学校推薦型選抜の対策をする」、「高校3年生で総合的な探究の時間についての復習をする」など、一体的な活用が可能となるというメリットがあり導入の提案及び検討がしやすくなった。

■高校からの声

- ・「本来であれば低学年のうちからやらせたかった」、「単年度ではなく低学年からの長い指導に向く」、「各自の興味関心を探究するサービスと、そのことを進路に活かすために言語化するサービスなので、うまく活用することができれば、年内入試をより活性化させることができると考える」など、コンソーシアムを組んだことを評価する声があった。
- ・「地方国公立大学を志望する際に、地域での取り組みが高校に居るだけではなかなか分かりません。GATEWAYによって記事にされている内容をきっかけに、自分の大学で学びたいもの（漠然とした志望理由）を言語化する作業にもなるかと思いました」とのご意見もあった。

※本ページの内容は、2025年12月に株式会社城南進学研究社と株式会社オーナーが、各高校の担当の先生を対象に実施した「探究・校務改革支援補助金2025 ご利用アンケート」の回答(9件)をもとにしています。

補助金により無料導入するものの、「総合的な探究」の教材予算が乏しいために継続利用につながりにく、高校の指導開始時期と交付時期のずれにより導入に手間取る場面もあった。これらに対する解決策として、段階的な有償化や導入後の迅速な支援体制の強化が考えられる。

直面した課題

- ・補助金を活用した無料導入のため、学校側の導入ハードルは低く関心も高い。一方で、「総合的な探究の時間」の教材費として予算がないケースがある。そうすると次年度の予算がそもそも確保されていないケースもあり、長期的な活用を見据えた位置づけになりにくいという課題があった。
- ・各高校の「総合的な探究」の年度開始時期より後に補助金交付が決定されるため、高校の指導計画との擦り合わせに手間と時間がかかるケースがあった。
- ・教科指導に比べて探究的な学びや総合型選抜への指導は定型を作りづらく、高校では試行錯誤している状況であった。

解決するための改善策

- ・「総合的な探究の時間」の教材予算が乏しく継続利用に繋がりにくい点については、現在は導入1年目のみ無料でその後は有料となっているが、例えば導入2年目は企業側が半額補助等、学校側もある程度予算捻出する形での導入を進めることで、徐々に有償導入に移行する形をとる。
- ・交付決定後の高校との打ち合わせや導入・運用に関するアドバイスを、より迅速かつ緊密に実施する。
- ・サービス事業提供者として、学校ニーズや規模を類型化し、より有効な指導の型を予め作成して、提案及び提供を行う。
- ・株式会社オーナーと合同で、高校教員向けのセミナーを8月と12月に実施した。それぞれ61名・62名の教員より申込まれた。教員の関心の高さが伺えた。セミナー実施後のアンケートでも好評をいただいたので、今後も時期に合わせたテーマで定期的を開催したい。

社名	株式会社城南進学研究社
代表	千島克哉
設立年月	1982年9月
本社	神奈川県川崎市川崎区駅前本町22-2
資本金等	655,734千円
売上高等	3,831,270千円
従業員数	1,434人
事業内容	学習塾、その他各種教室の経営／フランチャイズチェーンシステムによる予備校、進学教室の募集及び経営指導／大学、高校及び中学受験用教材の企画、制作、販売／保育に関する事業

■お問い合わせ窓口

社名:株式会社城南進学研究社
 担当:丹治直毅
 電話:044-246-5211
 Mail:k-solution@johnan.co.jp

社名	株式会社オーナー
代表	佐々木敦斗
設立年月	2021年6月
本社	仙台市青葉区北目町1-18ピースビル北目町7F
資本金等	730万円
売上高等	2772万円
従業員数	1名
事業内容	教育コンテンツ開発(探究学習、アントレプレナーシップ教育、キャリア教育等)

■お問い合わせ窓口

社名:株式会社オーナー
 担当:佐々木敦斗
 電話:090-7930-1252
 Mail:atsuto@ownerjapan.co.jp